

国際協力

駒ヶ根訓練所NEWS

JICA駒ヶ根

青年海外協力隊とシニア海外ボランティアの 初の合同訓練実施 (10月10日~12月13日)

20歳から39歳の青年海外協力隊(JOCV)、40歳から69歳のシニア海外ボランティア(SV)、2つの異なるボランティアの初めての合同訓練が行われました。



▲ボランティア活動に関する意見交換会

月曜日から土曜日まで、7:00からの「朝の集い」に始まり、「語学講座」「一般講座」、夜の学習を経て、23:00就寝。これを65日間。年齢、社会経験は違うものの、どちらもJICAの海外ボランティアであることは同じ。一緒に訓練をすることで相乗効果が得られる等を目的に合同訓練となりました。

途上国で自分の持つ技術や経験を活かして、途上国のために活動しようと、自ら手を挙げて参加

した人たちです。このような熱い気持ちを持った協力隊候補者119名とシニア海外ボランティア候補者64名がこの駒ヶ根に集いました。

訓練中の面談で聞かれた「協力隊の若さとエネルギーをもらっています」「何事にも積極的に取り組む若者をうれしく思う」とはSV候補者の弁。一方、協力隊候補者からは「SVの方はすごい経験と知識のある方々ばかりなので勉強になります」「シニアが頑張っているのだから、私たちも負けてられない」との声が上がっていました。このような声の後ろからは、「若者は、税金を使っている事業ということをもっと自覚しないとイケない」とか、「SVの方がいると質問しづらいですよ。そんなこともわからないのか、と言われそうで」という声も聞こえてきました。

訓練所では相乗効果をより高めるためにも、訓練カリキュラムの中には、SVの方が講師となり、これまでの国内外の経験や知識を伝えるような講座や、協力隊の方たちが講師となって新しい手法を共有するような講座も組みこんだりしています。

SV候補者の中には、新しく学ぶ語学には苦労している方もいる様子。「もっと時間が欲しい」「もっとペースを遅くして欲しい」「若い人と一緒に無理だ」といった声があるのも事実です。一方で、同じボランティアとして一緒に訓練することに大賛成、という方もいます。

初めての合同訓練。今回の経験をもとに、今後の訓練のあり方を検討していく予定です。

さて、「今後の訓練のあり方」を考えるためには、これまで駒ヶ根でどのような訓練が行われてきたかを確認する必要があります。温故知新。次ページからは現在までの訓練の変遷を紹介します。

TOPICS

特集 訓練の変遷

初の合同訓練実施	P1
訓練の変遷	P2・3
訓練所こぼれ話	P4
元気にやっとりけ?	P4
第14回協力隊週間2007 in こまがね 大好評!	P5
アフリカ・キャラバン in Nagano	P5
国際交流フェスティバルに参加	P5
長野県出身ボランティア 奮闘レポートリレー	P6
出発コメント	P7
訓練所の1日	P7
国際理解教育のお手伝いします!	P7
お知らせ	P8

駒ヶ根訓練所(JICA駒ヶ根)の 地域連携事業

訓練所は、JICAボランティア派遣前訓練・研修の他に、県や自治体・学校等と連携した開発教育・国際理解教育の実践支援についても、随時ご相談を受付けております。



▲生活技法講座でSV候補者が魚のさばき方を指導

年	訓練日数	訓練の変遷
昭和40年 (1965年)	62日間	<p>青年海外協力隊発足</p> <p>第1陣31人(うち女性5名、派遣国フィリピン、マレーシア、カンボディア、ラオス)の訓練は、当時の海外移住事業団海外移住センター(横浜)において、一般オリエンテーション及び語学、職業訓練校や団体等での技術研修が行われた。この訓練の目的は「日本と全てが異なる厳しい環境のもとで、苦しみや孤独感に耐える強い忍耐力と社会奉仕精神を養う」つまり心身の鍛錬に重点がおかれていた。</p>    <p>初訓練入所式</p> <p>講義の風景</p> <p>体力づくり</p> <p>垂水 秀俊さん(昭和45年度3次隊・マレーシア・体育) 現在、19年度SV(ネパール・保健体育) 広尾訓練所で訓練の受けたのは1970年の初め。ちょうど協力隊が発足して5年目の頃だった。当時は朝6時半起床、ラジオ体操の後、全員で毎朝約3キロの距離を走り、最後にはマラソン大会も全員参加のもと開催された。また精神の修養で、僧侶の指導のもと、座禅も組んだ。訓練生は各国ごとに二段ベッドで八畳敷の畳の部屋で、任国への夢を語り合ったものだ。今でも当時の仲間とは深いつながりがある。</p>
昭和43年 (1968年)	91日間	<p>協力隊事務局・広尾訓練所開設 広尾訓練所にて訓練開始</p> <p>訓練は2ヶ月の一般オリエンテーションと1ヶ月の技術研修との3ヶ月。語学は全期間を通じて行った。年3回実施。</p>
昭和48年 (1973年)	119日間	<p>訓練期間16週間(4ヶ月)で年4回実施。広尾訓練所で訓練前半の8週間で座学と語学、後半8週間は語学集中訓練として代々木訓練所(オリンピック記念青少年センター施設を借用)で実施。</p>
昭和54年 (1979年)	105日間	<p>駒ヶ根訓練所開設 (年4隊次・候補生100人規模でスタート)</p> <p>広尾訓練所の1ヶ月間を導入訓練、駒ヶ根訓練所での語学集中訓練3ヶ月間。広尾から駒ヶ根への移動時に3日間の座禅訓練を行い、さらに駒ヶ根訓練所修了後は再び広尾に戻り、修了式・壮行会等の派遣前諸行事を実施。</p>  <p>開所式の様子</p> <p>左が山形候補生</p> <p>山形 茂生さん・現在、駒ヶ根訓練所長(昭和55年1次隊・ケニア・理数科教師) 20年前頃までは訓練課業としてクラブ活動があった。私は「太鼓部」希望者を募ったが規定の人数が集まらず、音楽部に入った。「駒ヶ根の音楽をやるよ」という提案が通り、保存会の方にお願いで太鼓持参で訓練所に来ていただき、隔週で5回ほど早太郎太鼓を練習した。最後に皆の前で一曲披露したが、先生方の撥別きにはやはり敵わなかった。</p>
昭和57年 (1982年)		<p>候補生の増加に伴い、一室二人部屋となる</p> <p>宮尾 眞矢子さん(昭和58年度4次隊・バングラデシュ・建築製図) 現在、19年度SV(バングラアイ・家具製作) 58年4次隊候補生は広尾での訓練を年末に終え、お正月を自宅で過ごした後、座禅合宿のために浜松駅に再集合した。厳冬の凜とした空気の中、方広寺という禅寺で生まれて初めての座禅を組んだ。一日3回の座禅の合間には、住職の法話を聞き、寺の掃除を行った。法話の内容は「無」や「耐」について、経験談の中からお話されたこと記憶している。この座禅合宿のあとは一路バスで、語学訓練の待つ駒ヶ根へ向かった。</p>  <p>座禅合宿を実施</p>
昭和58年 (1983年)		<p>駒ヶ根市協力隊を育てる会設立</p>
昭和59年 (1984年)	91日間	<p>年4隊次制から年3隊次制に変わり、広尾・駒ヶ根自己完結型訓練を同時並行で実施。駒ヶ根訓練所候補生は訓練終了後に東京に移動し、両訓練所の候補生が一堂に会し、3日間の派遣手続き等の赴任前オリエンテーション及び諸行事を実施</p> <p>亀山 敏明さん(昭和59年度3次隊・バングラアイ・冷凍機器空調) 現在、19年度SV(ホンジュラス・訓練カリキュラム・冷凍機器空調-) 1984年当時、訓練プログラムの中に野外活動が組み込まれていました。夏は登山とテントでのキャンプ体験、冬はスキー合宿を行いました。私は3次隊だったので、12月初めに訓練が始まり、その2週間後に長野県車山高原に1泊2日の日程でスキー合宿に行きました。スキーウェアの用意などはなく、訓練所から貸与されたアノラックと薄いオーバーズボンにジャージの上に着こみ、スキー手袋の代わりに軍手をしてスキーをしたのですが、雪が溶けて軍手がびちょびちょに濡れて手が冷たくなり、閉口しました。また夜はロープワークの講座を行いました。</p>  <p>スキー合宿</p>
昭和61年 (1986年)		<p>長野県青年海外協力隊を育てる会設立</p>

初代隊員の娘さんが、19年度3次隊の協力隊員として派遣!

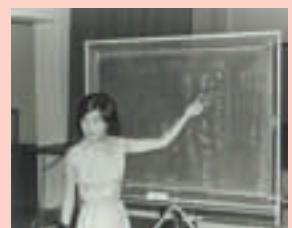
初代隊員の母親から、新隊員の娘さんへのメッセージ

柿倉 侑子さん(旧姓:山崎)(初代隊員・マレーシア・日本語教師)

今回の「協力隊」への参加は、以前の海外勤務と違って突然の推しではなかったこと、また「協力隊」というなじみのあるところでの仕事ということで余り驚きもなく、静かに推しを見ていこうと思いました。

その反面、母親としては国内で自分の場を固めてから、希望する仕事をしてほしいという思いもありました。自分自身を振り返ってみると、「協力隊」での2年間は多くの経験、仲間、友人を得、どこでも人々の生活は変わらないのだというごく当たり前のことを体験できた貴重な日々でした。行動できるときに、行動するという考え方には賛成です。40年前より情報もサポート体制も充実しているはずですよ。

健康を第一に考え、現地の要請に応えられるよう、あせらずゆっくりと努めて欲しいと思います。



1968年 マレーシアで日本語を教える柿倉さん

年	訓練日数	訓練の変遷
昭和61年 (1986年)		<p>石井 裕之さん(昭和61年3次隊・ホンジュラス・農畜産物加工) 現在、駒ヶ根訓練所語学講師</p> <p>厳寒の三次隊訓練。規律や時間に厳しく追われる毎日。所外活動先は養鶏農家。協力隊を自覚して重労働を期待…実は覚悟を決めての出陣。ところが暖かい炬燵で思わぬ歓迎を受け、懐かしい家庭の味ですっかり癒され感服。そして肝心の作業は楽しい団欒の合間に…。「訓練で睡眠不足だろうから少し寝ていきなさい」と、内緒で仮眠までさせて頂いた。海外に思いを馳せてがむしゃらに訓練生活を送る中で見失いかけていた故郷日本の味を、改めて噛み締めることのできた大切なひとときであった。(当時、所外活動は全4日)</p>  <p>所外活動中の候補生</p>  <p>生活技法講座中</p> <p>櫻井 国弘さん(昭和61年度2次隊・ペルー・野球) 現在、駒ヶ根訓練所スタッフ</p> <p>広尾訓練所での90日間、15人での大部屋生活は、非常に衝撃的だった。それまで野球通じ集団生活には慣れていると思っていたが、職種や年齢など背景が全く違う人たちとの出会い、ふれあい、会話はこの訓練以外では経験がない。訓練終盤、駒ヶ根で訓練を受けていた候補生と日本青年館と一緒に宿泊。現在のような、メールでのやりとりもなく、いきなりの駒ヶ根候補生と面会は、圧倒された。精悍でヒゲだらけの猛者たちの集団であった。訓練中は職員を目をいかに欺き、訓練所を抜け出すかばかりを考えていた私が、現在駒ヶ根訓練所に勤務しているのは、何の因果だろうか……?</p>
昭和63年 (1988年)	77日間	<p>訓練所の増改築工事に伴い、S62.3次隊の訓練を市内にある早稲田実業合宿所の施設を借りて実施</p> <p>研修棟・大講堂増築 S63.1次隊より1隊次190名規模となる</p>  <p>二段ベッドの一室(一部屋)</p> <p>黒田 歩さん(旧姓・原)(平成元年1次隊・バングラデシュ・家政) 現・駒ヶ根訓練所職員</p> <p>同室の彼女とは名字も職種も一緒、幸いなことにとても気が合って、二段ベッドの上と下で様々な事を語り合ったものだ。励まし励まされお互いの言語もいつしか耳で覚え、訓練終盤にはスペイン語の彼女も我がバングラ語のアザド先生と会話らしきものをしていた。訓練が良き思い出と言えるのも、楽しい相方がいたからこそと思う。</p>
平成2年 (1990年)	79日間	<p>伊南地域中学生体験入隊の開始(駒ヶ根青年会議所との共催)</p> <p>二本松訓練所開設</p> <p>派遣前の諸行事を含む全ての訓練について、同じ訓練実施計画書のもと広尾・駒ヶ根・二本松三ヶ所同時並行で実施</p> <p>小中学校との学校交流が始まる</p> <p>駒ヶ根協力隊週間国際広場が始まる 訓練カウンセラーの配置 駒ヶ根訓練所開所20年の集い</p> <p>森のステージ/研修棟の完成</p>  <p>野外訓練でテントに泊まることも</p>
平成6年 (1994年)		<p>4階建ての新しい宿泊棟が完成 居室は個室となり1隊次240名規模となる</p>  <p>現在の全景(開所当初と比較すると拡大しているのが明確)</p>  <p>一人一部屋となる</p> <p>川崎 さつきさん(平成13年度2次隊・サモア・野菜) 現在、駒ヶ根訓練所スタッフ</p> <p>19時から21時のチャイムで解放されるまで、候補生全員宿泊棟から研修棟に移動し各自、語学教室や図書資料室で語学や任国研究を行うことが日課として決められていた。スリッパ・サンダルは厳禁、踵を覆う靴を履くこととなっていた。夕食後から22時までの外出が可能になった今の訓練と比べると、ずいぶん窮屈であったと思う。</p>
平成17年 (2005年)	70日間	<p>駒ヶ根訓練所開所25周年</p> <p>8月から35日間、SVの初合宿訓練 駒ヶ根での初のシニア海外ボランティア合宿研修実施</p> <p>なかの 幸郎さん 18年度SV(ホンジュラス・音楽)</p> <p>自分はSVに参加することで、2度おいしい人生を歩むことができ、すごく楽しんでいます。ここで出会えた皆さんは実際の年齢よりも若く、好奇心一杯でたくさんの刺激をいただきました。この中には日本を代表するような素晴らしい人が沢山。それぞれの「人生体験」をもっともっと聞いてみたかったですね。</p>
平成18年 (2006年)		<p>初のJOCV・SV合同訓練</p> <p>駒ヶ根・二本松訓練所同時に協力隊・シニア海外ボランティア合同訓練を実施</p>
平成19年 (2007年)	65日間	

娘・柿倉まゆみさんから母へのメッセージ(19年度3次隊・モルディブ・美術)

協力隊は既に私にとって「お馴染み」だったので、「お母さんはそんな昔に行って凄いね。」と言われると何か不思議な気がします。確かにまだ海外へ行く人が少ない時代にボランティアに行くことは珍しかったでしょう。お母さんの決断もちょっと変わっている決断だったかもしれません。もっと変わっているなと思ったのは行くことに賛成した祖父母です。あの時代に娘を海外ボランティアに行かせるなんて、やはりハイカラです。母娘で奇しくもほぼ同じ訓練日程、ほぼ同じ緯度の国、同じ新規派遣で行くのでアドバイスは色々参考になります。私が行くことで心配事もあるでしょうが当時のことを思い出したり、同期の人と話が弾んだり、今の協力隊の様子を知ったり、なかなか楽しいこともあるのではないかと思います。現地からのレポートも楽しいものとなるよう、私なりにがんばってみるつもりです。では、行ってまいります!!



まゆみさんの壮行会の際に親子で

訓練所こぼれ話 No.5

きのうち しろう
木内 志郎さん

(JICA職員：昭和54年度～56年度、第10代所長：平成9年度～平成11年度)

訓練所で繰り広げられる毎日の中には、写真や記録には残らないけれど忘れ難い、心動かされる一言、面白い出来事、意外なエピソードなどがたくさんあります。そんな訓練所のこぼれ話をご紹介します。今回の執筆者は木内志郎さんです。

駒ヶ根訓練所がスタートしたのは1979年5月1日であった。その真新しい訓練所の宿泊棟と食堂の間の廊下に、衝立で仕切った“開かずの扉”という不思議な扉があった。宿泊棟から食堂に行くには僅か5～6mであったが、候補生は一旦外に出て地上ドームを通り、約30m歩いて玄関から食堂に入らなければならない、非常に不評であった。この扉が設置された経緯は、当時の協力隊運営委員会から、“訓練所の機能があまりにも便利過ぎる”と言うクレームが付いたことが発端であった。

当時私は、生活班担当職員として日夜訓練に没頭していた。劣悪な環境条件下にある開発途上国で、ボランティア活動を行なう協力隊員は、現地生活適応のための生活習慣を身に付けることが、派遣前訓練の大きなテーマのひとつであった。日本とは異なる不慣れな生活文化や慣習のなかで、一見理不尽なように見えることであっても、現地適応訓練の一環として、この“開かずの扉”が設置され、手洗い洗濯の励行も同様であった。ところが、この“開かずの扉”をいとも簡単にすり抜ける勇士が現れることもしばしばであった。その都度、生活班はその取扱いに苦悩することとなり、罰則を申し渡すストレスと葛藤は大変なものであった。なお、当時の大畑訓練所長(故人・初代)が、訓練所25周年誌に「開かずの扉問題」が設置準備期からの課題であったと回想されていた。

この“開かずの扉”は、開所二年後頃にはすべて開放され、同時に手洗い洗濯も過去の遺産となったのである。



これが“開かずの扉”

元気に やっとなるけ?

所外活動先より
隊員へのメッセージ



今回は果樹農家の湯沢康人さんにお話を伺いました。湯沢さんは平成11年度から候補者を受け入れてくれています。

ゆざわ やすと
湯沢 康人さん

湯沢康人さんの農園では、今回3人の候補者がリンゴや野菜の収穫をしました。農家さんにとって特に収穫の忙しい時期に候補者を受入れることは、逆に手間がかかってしまうときもあります。まず初めに、きめ細かな指導を行ってからでないと損害となることもあるからです。それでも、「失敗は当然。この体験を通して喜んでもらうことが一番大事だもんで、お互いどう気持ち良く仕事が出来るかを考えてるよ」と湯沢さんは言います。

作業場の引き出しの中には、初めて受け入れた11年度2次隊から候補者の感想が綴られたノートが何冊かあります。「最初の方は『リンゴおいしかった』『楽しかった』などのシンプルなコメントが多かったけど、この頃は写真や色使いなどに凝って、自分をアピールするようになってきた」と嬉しそうに笑っていました。

「現地では気楽に元気に、自分の肥やしになると思って出来ることをやっしていけば良いと思うよ」と候補者へメッセージをいただきました。

第14回協力隊週間2007 in こまがね大好評!

JICA駒ヶ根と周辺地域の住民との連携により「第14回みなこいワールドフェスタ協力隊週間2007 in こまがね」を10月22日から28日まで実施しました。この「みなこい」は上伊那地域の宮田村、中川村、駒ヶ根市、飯島町の4市町村の頭文字をとったものです。

駒ヶ根青年会議所、駒ヶ根市商店街、駒ヶ根協力隊を育てる会、駒ヶ根市役所、JICA駒ヶ根などが中心となって開催しました。さらには、長野県立看護大学の学生さん、協力隊員OV、シニア海外ボランティア・協力隊員の候補者が協力しました。大阪からJICAボランティアの家族や支援者の訪問もありました。今回の特徴はSVとJOCVの初の合同訓練中にこのイベントが行われたことです。SVの参加が得られたことにより、バラエティに富んだ催し物になりました。



▲国旗をフェイスペイントしてもらおう子どもたち

内容は、まずは定番のアラブ、バングラデシュ等の世界の料理が食べられるレストラン。恒例の「地球の料理教室」ではマダガスカルのエスニック料理でトマト味、肉ベースのスープ。長時間煮込んで肉野菜の味がしっかり出ており、好評でした。そして、スペイン語、ベンガル語など協力隊員が使っている言語の学習コーナー。こどもが大きな声で見知らぬ言葉を真似ていました。さらには、みなこい4市町村で協力隊創設10年目の広報映画「アサンテサーナ」を上映。協力隊の原点を思い出した人も多いと思います。前夜祭での映像をフルに活用した見（魅）せるJICAボランティアの帰国報告。

そして、メインステージのワールドステージではネパールのナマステ体操、種々の音楽に加え、協力隊OGが披露するなまめかしくも異国情緒あふれるベリーダンスが披露されました。

アフリカ・キャラバン in Nagano ～Dance with Africa 2007～

「アフリカ人日本人みんな地球人」をテーマに国内5か所で開催されたこのイベントの第1回目をJICA駒ヶ根で開催することができました。

9月29日にJICA駒ヶ根において開催されたこのイベントには、悪天候にもかかわらず200人ほどの一般市民の方が参加しました。大人気だったアフリカの太鼓やダンスのワークショップ、元Jリーガーのジンバブエ人コーチの指導の下、サッカー教室も開催され、たくさんの小学生が参加しました。また長野県内でどのようにアフリカ理解を進めるかについてのパネルディスカッションでは活発な意見交換がされました。プログラムの最後はアフリカ音楽のライブで締めくくりました。参加者からはアフリカを身近に感じ、もっとアフリカに触れたいという感想をたくさんいただきました。



▲アフリカの太鼓のワークショップ

地域での国際交流フェスティバルに参加しました!

JICA駒ヶ根では地域の国際交流イベントに積極的に参加し、国際理解や国際協力への市民参加を呼びかけています。



10月には「国際交流フェスタ2007 in 安曇野」、11月には「国際交流フェスティバルIN佐久」、「上田市国際交流フェスティバル」が開催され、それぞれの地域で活躍している帰国隊員も「JICAブース」を担当、派遣された国の紹介やその国の珍しい食べ物、飲み物の試食などを交えて楽しくPRしました。JICAブースには海外ボランティアに興味のある一般市民の方をはじめ、大人からお子さんまでたくさんの方が足を止めて見入っていました。

◀帰国隊員も大活躍

ボランティア 奮闘レポート

report_34

ケニア

文化財保護 (駒ヶ根市)

青年海外協力隊

 きがさわ ひろのり
氣賀澤 博徳さん

ケニア

面積：58万3,000 km²

人口：3,430万人 (2005年、世銀)

首都：ナイロビ (人口約220万人)

住民：キクユ人、ルヒヤ人、カレンジン人、ルオ人等

言語：スワヒリ語、英語

宗教：伝統宗教、キリスト教、イスラム教

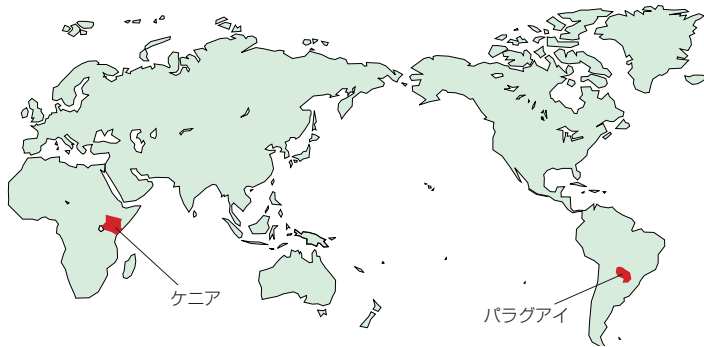
(外務省HP：各国・地域情勢より)



▲博物館に見学に来た子どもたちと

私の任地キスムはケニア南西のニャンザ州の州都で、ビクトリア湖とインド洋とを結ぶ鉄道交通の要衝です。赤道直下に位置していますが、標高が約1200mあるので朝夕が涼しく、日中を除けば暑さは苦になりません。真夏の長野といったところです。野菜は白菜やネギなど馴染みあるものが手に入るので、日本とほとんど変わらない食生活を送れます。これでふじ林檎と温泉があれば言うことはないのですが。

配属先のキスム博物館は、ユネスコの支援を得て1980年に開館しました。当館には多くの民族資料・剥製が存在しますが、ほとんどが活用されることなく放置されているのが現状です。私はそういった未分類の収蔵品の保存管理体制と、データベースの構築を行っています。仕事は施設の不備や予算不足で日本のように進みません。何事もポレポレ(ゆっくり)のケニア人との共同作業は随分やきもきさせられます。しかし、雄大なケニアの自然を見習い、「ゆっくりでも地道に確実に」を目標に日々活動しています。今後は館内作業だけでなく、周辺地域に存在する岩絵や遺跡、失われていく民族文化の保存活動も積極的に手掛けていきたいと考えています。



report_35

パラグアイ

デジタル伝送 (長野市)

シニア海外ボランティア

 よこた ただし
横田 正さん

パラグアイ

面積：40万6,752 km²

人口：600万人 (2006年、世銀)

首都：アスンシオン (人口約50万人)

住民：混血(白人と先住民)97%、欧州系2%、その他1%

言語：スペイン語、グアラニー語 (ともに公用語)

宗教：主にカトリック (信教の自由は憲法で保障)

(外務省HP：各国・地域情勢より)

新年明けましておめでとうございます。夏真っ盛りのパラグアイで二回目の新年を迎えました。

配属先はCITECというアスンシオン大学工学部・技術イノベーションセンターで働いています。大学の附属研究所なので若いカウンターパートとその同僚に囲まれてデジタル伝送や光ファイバの接続・測定等を含め技術移転しております。センターには工業高校も併設され約150名の生徒も学んでいます。こういうことを知るまでは静かなセンターだと思っていましたが、徐々に見方が変わり、一年半以上経過した今はにぎやかだと思っています。



▲センター研修生に囲まれる横田さん (左から3番目)

私は週末天気が良ければ地方を巡り訪れた場所は85を越え、今では職場の皆さんも「あそこへは行ったか？」などと声を掛けてくれます。行った先で子供達や、村人とコミュニケーションし写真を撮ったりすることが貴重な思い出ですがなかなか機会に巡り遭いません。最近では教会と役場の建物は必ず撮ってくるようになりました。帰国までにはパラグアイの町村を100以上訪問できると思います。ブログで紹介していますのでご覧ください。派遣された皆さんの任地があるかもしれません。

アスンシオン大学先端技術センターアドレス

<http://fromasuncion.net>

行ってらっしゃい!! 長野県出身・新ボランティアのみなさん

長野県出身のボランティア計5名が1月上旬から、それぞれの任国へ出発しました。
(敬称略。かっこ内は派遣国名/職種/出身市町村)

【青年海外協力隊】



い で み な こ
井出 美奈子

(チリ/環境教育/佐久市出身)

チリの小学校から中学校までの子供達に環境教育を教えに行く予定です。子供達と一緒に身近な環境について、そして地球全体も考えられるようにしていきたい。チリの人に何かを残せるように、楽しく、元気に頑張っていきたいです。



か ら き た く
唐木 拓

(ナミビア/コンピュータ技術/伊那市出身)

首都から北へ450キロの所にあるグレートフォンティン町役場でコンピュータ関連のサポートを行います。二年間の派遣ですが、任地の役に立つ事を行いたいと思います。また日本では出来ない事を多く行いたいと思います。



おぎはら けい き
荻原 啓希

(ベリーズ/自動車整備/松本市出身)

今回の協力隊の参加は挑戦です。今までとは違う環境に飛び込んで行き、現地の人々と2年間という短い期間で精一杯自分を表現し、少しでもいいので、そこにいたという跡を残したい。何が現地で待っているか分からないが、いろいろな事を学んで、学んで、教えていきたい。



さかた ち え
坂田 千恵

(バングラデシュ/村落開発普及員/小県郡長和町出身)

農村部の生活改善を目的として活動してきます。目立つでもなく、消えるでもなく、バングラデシュの風になりたいです。



かさい ちかこ
笠井 千賀子

(ヨルダン/環境教育/松本市出身)

「今、地球ではどんな環境問題が起こっているの?」「地球のために私たちにできることは何かな?」をヨルダンの小中学校の子どもたちと一緒に考え、小規模でも人の心や地域に根付く活動をしたいと思っています。

次回の訓練予定

平成20年1月9日(水)～3月13日(木)

平成19年度4次隊

JICAボランティア派遣前訓練

「訓練所の一日」

No.13 ～アウトドアレッスン～

訓練において大きな比重を占めるのが“語学”です。65日の間に全部で210時間の語学訓練が行われています。

普段は教室での勉強ですが、より実践的な言葉を学ぶため、訓練所の外へ出かけることもあります。お昼をはさんで一日出かけるOne-day Tripと、半日のHalf-day Tripがあります。出かけている間はなるべく日本語を使わず学習言語のみで会話をします。いつもとは違った環境の中で、生き生きと語学を楽しんでいる候補者の笑顔が印象的です。



▲この日は養命酒工場へHalf-day Trip!

国際理解教育のお手伝い します!(JICAの開発教育支援)

JICA駒ヶ根では、学校や自治体、一般の方の国際理解を深めていただくためのプログラムを実施しています。来年度のスケジュールを検討中の皆様、学校の授業やクラブ活動、自治体・国際交流市民講座などの機会にこのプログラムをぜひご利用ください。

【JICA国際協力出前講座】

出前講座は、国際協力の現場で活動経験のある方を講師として派遣するプログラムです。

●講師はどんな人?:

元JICAボランティア(協力隊・シニア海外ボランティア等)やJICA関係者です。

●どんなことができるの?:

内容はボランティアの活動体験や任国の様子・国際理解教育ワークショップ・異文化体験ゲーム・任国の料理紹介などです。

*元JICAボランティアの方を派遣する場合、原則として謝金(7,000円/1人)と交通費実費のご負担をお願いしています。予算が限られる場合はご相談ください。

【駒ヶ根青年海外協力隊訓練所施設見学】

自分の持つ技術や経験を活かして、途上国のために活動しようと、熱い気持ちを持った人たちが集う青年海外協力隊訓練所。この訓練所を訪問するのが本プログラムです。

●どんなことができるの?:

JICAボランティアの訓練の様子や施設の見学、JICAの事業概要、ボランティア体験談、国際理解教育ワークショップなどです。また、訓練中のボランティア候補者との昼食懇談会も人気のプログラムの一つです。(昼食懇談会については少人数の団体のみとなります)

興味関心のある方は、日程・内容等について、希望日の1か月前までにご相談ください。

JANUARY

1月

- 8日(火) 16:30-18:30**
JICAキャリアセミナー (職員採用説明会) (松本市中央公民館(Mウィング4階))
- 9日(水)**
平成19年度第4次隊派遣前訓練開始 (3/13まで) (駒ヶ根訓練所)
- 11日(金) 13:00-14:50**
公開講座「ボランティア事業の理念」 (講師: 大塚正明事務局長/青年海外協力隊事務局)
- 14日(月) 15:10-17:00**
公開講座「国際関係と日本の国際協力」 (講師: 廣野良吉氏/成蹊大学名誉教授)
- 15日(火) 14:00-14:50**
公開講座「JICA事業概要」 (講師: 神内 圭チーム長/青年海外協力隊事務局)
- 19日(土)**
New Year Africa 2008 (主催:ジンバブエ友の会 後援:JICA駒ヶ根) (長野市市民会館)
- 23日(水) 15:10-17:00**
公開講座「日本の近・現代史」 (講師: 佐藤寛氏/アジア経済研究所研究支援部長)
- 27日(日)**
長野県教員等ネットワークによる教員セミナー (予定) (松本南部公民館(なんなんひろば))
- 28日(月) 15:10-17:00**
公開講座「技術と開発のかたち」 (講師: 中村尚司氏/龍谷大学経済学部教授)

FEBRUARY

2月

- 2日(土) 15:10-17:00**
公開講座「異文化の理解と適応」 (講師: 木村秀雄氏/東京大学大学院総合文化研究科教授)

MARCH

3月

- 3日(月)**
高校生体験プログラム (予定) (駒ヶ根訓練所)
- 3日(月) 15:00-17:00**
公開講座「地球のステージ(コンサート)」 (講師: 桑山紀彦氏/地球のステージ事務局理事)
- 13日(木)**
平成19年度第4次隊派遣前訓練修了式 (駒ヶ根訓練所)

◆ 公開講座の聴講を希望される方は、2日前までに駒ヶ根青年海外協力隊訓練所・公開講座担当まで、ご連絡ください。

編集後記

あけましておめでとうございます。初の合同訓練を修了したJICAボランティアの方のほとんどは1月上旬に各国へ旅立っていきます。皆さん不安を抱えつつも、新しいスタートに胸膨らませていることなのでしょう。新しい年、読者の皆さんもきっと「今年はこれを！」と心に決めて張り切っているの shouldn't we. 思いを実現できる1年でありますように。(キ)

お知らせ

- 1) 長野県教員等ネットワークによる教員セミナー**
11月27日(日)
10:00~16:00 松本南部公民館(なんなんひろば) (松本市)
今年度帰国された現職参加教員の帰国報告会をはじめ、長野県教員等ネットワークの活動報告、国際教育についての討論会などを実施予定です。詳細は長野県庁内JICAデスク(小林:026-235-1124)まで。
- 2) 高校生体験プログラム(予定)**
3月3日(月)
10:00~ 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所(駒ヶ根市)
語学体験や異文化料理実習など参加型のプログラムをたくさん用意しました。長野県内の高校生ならばどなたでも参加できます! 詳細は長野県庁内JICAデスク(小林:026-235-1124)まで。

がんばれ!! 長野県出身JICAボランティア!

JICAボランティア派遣実績		平成19年12月1日現在	
① 青年海外協力隊員数		③ 日系社会青年ボランティア数	
派遣中 46名 (内女性31名)	帰国 594名 (内女性252名)	派遣中 2名 (内女性2名)	帰国 13名 (内女性7名)
累計 636名 (内女性283名)		累計 15名 (内女性9名)	
② シニア海外ボランティア数		④ 日系社会シニアボランティア数	
派遣中 5名 (内女性0名)	帰国 25名 (内女性5名)	派遣中 0名 (内女性0名)	帰国 2名 (内女性0名)
累計 30名 (内女性5名)		累計 2名 (内女性0名)	

